

一般社団法人・静岡県中部未来懇話会の理事・運営委員・研究委員全体会が1月20日、静岡市葵区黒金町のホテルアソシア静岡で開かれた。当懇話会研究部会が中心となってまとめた2015年度年間調査研究テーマ案「人口減少時代、地域の人材力で飛躍する」を研究部会長の西野勝明・県立大教授が説明し、承認された。

静岡県中部未来懇話会 理事・運営委員・研究委員全体会

15年度年間テーマ案承認

「人口減少時代、地域の人材力で飛躍する」

同研究部会では昨年10月末、15年度の研究テーマ案について協議し、「人材力の育成強化」とすることを決めた。その後、11月26日の運営委員会との合同会議で、「人材力だけでは焦点がやや散漫」などの指摘を受けたため再度研究部会を開き、国内的

にも、また県内でも最大の課題となっている人口減少に対応していくための人材力という視点で素案を見直した。

趣旨説明で西野部会長はテーマ設定の背景、目的について、アベノミクスによって日本経済は明るさを取り戻しつつあるものの、消費増税による民間消費

の不振で、都市部と地方との格差が広がり、地方の停滞感が強まっている、と指摘。政府も地方創生法を軸に地方対策に本腰を入れ始めた中、今後さらに進む人口減少に的確に対応し、県中部地域の発展方策を探り、実行していく人材の育成強化策について検討することとした。

調査研究は年2回のシンポジウムを開催し、基調講演とパネル討論で構成。具体的には春のシンポ（6月）では「人口減少時代、求められる企業経営と企業家像」と題して、後継者不足や創業・起業の活発化、海外進出など激しい環境変化に適応し

ていくための企業経営と企業家像を探る。

秋のシンポ（10月）では「人口減少時代、地域リーダーの役割を探る」とし、人口減少はじめ将来にわたる困難な課題に立ち向かう行政や市民団体、経済界などの地域リーダーの役割などを検討する。

西野部会長は「人口減少には行政、経済界、市民が一体となって取り組んでいかなければならない。その点、最近はやや連携が弱い点も見受けられる。厳しい環境変化に対応できる人材についてぜひ検討を進めていきたい」と述べ、出席者から満場一致で承認された。

このほか事務局が創業・起業支援による地域経済の再生策を検討している「中部地域経営会議」の活動状況などを報告した。引き続き理事会が開かれ、15年度事業計画及び収支予算案と3月17日の臨時社員総会開催を了承。14年度事業の中間報告、中部地域経営会議の経過報告も行われた。



15年度年間調査研究テーマ案などを討議した理事・運営委員・研究委員全体会。静岡市のホテルアソシア静岡。